

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年1月5日

1. 職名・氏名 教授・土屋 正史

2. 学位 学位 博士(理学)、専門分野 実験古生物学、海洋生物学、分子生態学、授与機関 静岡大学、授与年 2000年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 1. 生物学基礎(単位なし: プレースメントテスト補講) 1年次前期オムニバス(2コマ) 2. 海洋生物学(2単位) 1年次後期(15コマ)
② 内容・ねらい 過去の地球環境に生息していた化石生物を理解するためには、現在の海洋環境や海洋生物に関する知識が不可欠である。本講義では、現在の海洋環境がどのように成立してきたのかを、その形成過程を含めて解説するとともに、海洋環境の違いに応じてどのような生物が分布し、生態系が維持しているのかを学ぶ。特に、地球科学的事象と密接に関わる多様な海洋生態系を取り上げ、地球・海洋・生物圏の相互作用を理解するとともに、それらの知見を古生物学研究へどのように応用できるかを学ぶことを目的とした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 各講義終了時には講義メモの提出を課し、講義内容を踏まえて生じた疑問点や不明点、気付き、感想などを学生自身の言葉で記述させた。さらに、論文や報道等で紹介された科学的トピックを学生自らに探させ、どのような点に興味を持ったのか、またその新規性や意義をどのように捉えたのかを整理して記載させた。これらの課題を通じて、学生が受動的に知識を受け取るのではなく、自らが主体的に考える機会を与え、講義の内容を深く掘り下げるアクティブラーニングの姿勢を促した。 提出された講義メモについては、Google classroom を活用して受講者全員に対して毎回個別にフィードバックを行い、学生から寄せられた質問や疑問点に対して各講義内容と関連付けながら回答した。これにより、理解が不十分な点をその都度共有し、知識の定着を図るとともに、講義内容の深化を支援した。これらの取り組みを通じて、講義で生じた疑問をその都度解消し、理解不足の解消に努め、学生自身の思考力向上と能動的な学習姿勢の醸成を図った。
(2)その他の教育活動
内容 ● 福井県立大学公開講座「日本海の長期・短期環境変動と生物の応答」(5回のうち2回を担当)

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	
1. <u>土屋正史</u> 、藤田和彦、高木悠花、野牧秀隆「有孔虫」の項目を分担執筆「水の中の小さな美しい生き物たち—小型ベントス・プランクトン百科（仲村康秀・山崎博史・田中隼人：編）」p. 90–99. 朝倉書店（2025 年 8 月 1 日出版）	
2. 野牧秀隆、仲村康秀、 <u>土屋正史</u> 、嶋永元裕、コラム「海洋・湖沼の食物網」を分担執筆「水の中の小さな美しい生き物たち—小型ベントス・プランクトン百科（仲村康秀・山崎博史・田中隼人：編）」p. 216–217. 朝倉書店（2025 年 8 月 1 日出版）	
	【 2 件】
② 学術論文（査読あり）	
1. Isobe N, Tanaka K, Ishii S, Shimane Y, Okada S, Daicho K, Sakuma W, Uetani K, Yoshimura T, Kimoto K, Kimura S, Saito T, Nakajima R, <u>Tsuchiya M</u> , Ikuta T, Kawagucci S, Iwata T, Nomaki H, 2025, Fully-circular shapeable transparent paperboard with closed-loop recyclability and marine biodegradability across shallow to deep sea. <i>Science Advances</i> 11 , eads2426. DOI: 10.1126/sciadv.ads2426（2025 年 4 月掲載）	
2. Gooday AJ, Ishitani Y, Chen C, Holzmam M, Richirt J, Seike K, Yamashita M, <u>Tsuchiya M</u> , Nomaki H, Integrative taxonomy of new xenophyophores (Rhizaria, Foraminifera) from the abyssal northwest Pacific. <i>European Journal of Taxonomy</i> 1004 , 144–189. 1004, 144–189. DOI: 10.5852/ejt.2025.1004.2973（2025 年 7 月掲載）	
3. McGann M, Holzmam M, Bouchet VMP, Eichler PPB, Haig DW, Himson SJ, Kitazato H, Pavard J-C, Polovodova Asteman I, Rodrigues AR, Tremblin CM, <u>Tsuchiya M</u> , Wililams M, O'Brien P, Asplund J, Axelsson M, Analysis of a human-mediated microbiotransformation: the global spread of the benthic foraminifer <i>Trochammina hadai</i> Uchio, 1962. <i>Journal of Micropalaeontology</i> 44 , 275–317. DOI: 10.5194/jm-44-275-2025（2025 年 9 月掲載）	
4. * <u>Tsuchiya M</u> , Yoshida T, Chikaraishi Y, Ogawa ON, Nomaki H, Fujiwara Y, Yamaguchi TY, Tada Y, Jenkins RG, Sasaki Y, Fujikura K, Ohkouchi N, 2025, Nitrogen isotopic composition of amino acids reveals a variety of trophic ecology of organisms inhabiting chemosynthesis-based ecosystems. <i>Progress in Earth and Planetary Science</i> 12 , 94. DOI: 10.1186/s40645-025-00768-6（2025 年 10 月掲載）	
5. Hayward BW, Holzmam M, Langer MR, Parker JH and <u>Tsuchiya M</u> . 2025. Molecular and morphological taxonomy and biogeography of living Cribroelphidiidae, Elphidiellidae, Elphidiidae, Haynesinidae and related taxa (Foraminifera, Rotalioidea). <i>Micropaleontology</i> 71 (5–6), 433–803. DOI: 10.47894/mpal.71.5.01（2025 年 11 月掲載）	
6. Sindlev MB, BalmonteJP, Wenzhöfer F, Xiao W, Stief P, Oguri K, <u>Tsuchiya M</u> , Yokoyama Y, Rudra A, Canfield DE, Sanei H, Brandt A, Glud RN, 2026, The benthic environment of the Aleutian Trench region: Sediment provenance, organic carbon sources and deposition dynamics. <i>Progress in Oceanography</i> 241 , 103627. DOI: 10.1016/j.pocan.2025.103627（2025 年 11 月オンライン掲載）	
7. Maeda A, Naito YI, <u>Tsuchiya M</u> , Chikaraishi Y, Fujita K, Ohkouchi N, Kawahata H, 2026. Discrepancies between feeding ecology and trophic position based on nitrogen isotopic composition in endosymbiont-bearing benthic foraminifers. <i>Progress in Earth and Planetary Science</i> （2025 年 12 月 25 日受理）.	
	【 7 本】
③ その他論文（査読なし）	
	【 0 本】
④ 学会発表等	
1. Richirt J, Okada S, Ishitani Y, Uematsu K, Tame A, Oda K, Isobe N, Ishimura T, <u>Tsuchiya M</u> , Nomaki H. Composite calcite and opal test in Foraminifera (Rhizaria). 日本地球惑星科学連合 2025 年大会. 2025 年 5 月 27 日（幕張メッセ）	

2. *<u>土屋正史</u>、Bruce W.Hayward、Maria Holzmann、Jan Pawlowski、Justin H.Parker、Tuhsar Kaushik、Makoto S.Toyofuku、分類再考：<i>Ammonia beccarii</i> の呪縛．日本古生物学会 2025 年年会、2025 年 6 月 28 日（北海道大学） 3. *<u>土屋正史</u>、McGann M、Holzmann M、Bouchet VMP、Eichler PPB、Haig DW、Himson SJ、Kitazato H、Pavard J-C、Asteman IR、Rodrigues AR、Tremblin CM、Williams M、O'Brien P、Asplund J、Axelsson M、小さな侵入者：底生有孔虫 <i>Trochammina hadai</i> の全球的人為拡散．2025 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会、2025 年 9 月 9 日～12 日（東北大学新青葉山キャンパス） 4. Nishi H, Kamiya T, Ando H, Noriki S, Oishi Y, Kawabe S, Shibata M, Takata H, Tsuchiya M, Imai T, Nakamura H, Hattori S, Oyama N, Kinoshita S. Faculty of Dinosaur Paleontology, Fukui Prefectural University: a New Hub for Dinosaur Paleontology Education and Research in Japan. The 6th International Symposium on Asian Dinosaurs. 27 Sep. 2025. Fukui Prefectural University, Fukui, Japan. 5. Goody AJ、石谷佳之、Chen C、Richirt J、<u>土屋正史</u>、山下 桃、清家弘治、野牧秀隆、北西太平洋深海平原に生息するゼノフィオフォアの形態、生態、分布．日本古生物学会第 175 回例会、2025 年 12 月 6 日（薩摩川内市） 6. *<u>土屋正史</u>、底生有孔虫 <i>Virgulinea fragilis</i> の遺伝的集団の形成と貧酸素環境への適応様式の解明．日本古生物学会第 175 回例会、2025 年 12 月 6 日（薩摩川内市）	【 6 件】
⑤ その他の公表実績	
1. The 2025 Best Paper Award from <i>Micropaleontology</i> (受賞論文題目：Hayward BW, Holzmann M, Langer MR, Parker JH and Tsuchiya M. 2025. Molecular and morphological taxonomy and biogeography of living Cribroelphidiidae, Elphidiellidae, Elphidiidae, Haynesinidae and related taxa (Foraminifera, Rotalioidea). <i>Micropaleontology</i> 71 (5–6), 433–803) 2025 年 12 月	【 1 件】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】	
1. 科学研究費（学術変革領域研究（A））令和 7 年度～令和 11 年度「地球史から紐解く pH ストレス応答機構（計画研究代表：国立科学博物館 研究主幹 久保田好美）」（分担）	
【学内】	
2. 福井県立大学個人研究推進支援（ステップアップ研究支援）「太平洋側にのみ分布する底生有孔虫 <i>Elphidium crispum</i> の遺伝型IIは氷期の残存種か？ —氷期に日本海から排除された集団が後氷期に遷移できなかった理由を探る—」（研究代表） 3. 福井県立大学個人研究推進支援（出版・論文投稿支援【論文投稿】）「Nitrogen isotopic composition of amino acids reveals a variety of trophic ecology of organisms inhabiting chemosynthesis-based ecosystems（化学合成生態系に生息する生物の多様な栄養生態をアミノ酸窒素同位体比から解明）（主筆論文）	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
1. 日本古生物学会法人化実行委員会委員（2025 年 6 月まで）	

5. 地域・社会貢献活動

①-1 委員就任（国）文科省科学技術予測・政策基盤調査研究センター専門委員（令和 4 年～現在に至る） ⑥福井県立大学公開講座「日本海の長期・短期環境変動と生物の応答」（5 回のうち 2 回を担当。第 3 回：2025 年 7 月 29 日、第 4 回：2025 年 8 月 19 日、いずれも 20：00～21：00 @オンライン）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
1. 保健・学生相談センター運営会議委員（1回開催）（令和7年4月～現在に至る） 2. 広報連携チーム（兼高大連携）会議委員（開催なし）（令和7年4月～現在に至る）
(3)学内行事への参加
1. 古生物学実習・演習（大学院ゼミ）にて研究紹介セミナー（令和7年5月30日） 2. オープンキャンパス（令和7年8月3日） 3. 恐竜学部説明会高校訪問（県内6校：金津高校令和7年4月24日、藤島高校6月6日、敦賀気比高校・敦賀高校6月12日、仁愛女子高校7月14日、福井南高校8月5日） 4. 高校生進路相談会（福岡開催）令和7年8月30日
(4)その他、自発的活動など
1. 第6回アジア恐竜国際シンポジウム (ISAD2025) LOC ワーキングメンバー、プログラム係・編集委員（令和7年7月1日～10月30日） 2. 大学院学生副指導教員（坂根広大、大西侑生）（令和7年4月1日～現在に至る） 3. 横浜市桜丘高等学校2年生の探究学習への協力（令和7年7月22日） 4. 研究指導学生受入（Agathe Carabin）（令和8年2月1日～4月17日）